

ハンセン病への偏見差別が生んだ冤罪事件、菊池事件の再審開始を求める

映画 新・あつい壁 上映会

日時 2026年1月10日(土) 13:00~16:00 ごろ

場所 四ツ谷 聖イグナチオ教会ヨセフホール

定員 200名・申込不要・参加費 500円(資料代)

上映後、担当弁護士による再審請求の解説とハンセン病家族からの発言、また中山節夫監督の挨拶を予定しています。

ハンセン病への偏見差別は人の命を奪う

駆け出しのルポライター・卓也は、ホームレスの友田から、55年前に熊本で起きた殺人事件の話を聞かされた。「俺は、その犯人のせいにして盗みをはたらいてな。ところが後で、その犯人が死刑になったって聞いた。無実かもしれねえという話も…。」

これを取材すればいい記事が書けるかもしれない。軽い気持ちで取材を始める卓也。犯人とされたのはハンセン病患者。卓也は熊本へ向かった。

当時の話を聞けば聞くほど、死刑となった男・勇吉の無実を思わないではいられない。さらには、つい最近起こった宿泊拒否事件やその後ハンセン病療養所の入所者に送られてきた大量の誹謗・中傷の手紙やメールのことを知らされた。55年前の事件の中にあった偏見や差別は、決して過去の話ではなかったのだ。

新・あつい壁

監督：中山節夫

出演：趙珉和(卓也)、安藤一夫、ケーシー高峰、山辺有紀、永野典勝、河原崎健三、伊藤紘
堀内正美、小倉一郎、中村たつ、檜よしえ、常田富士男、左時枝、夏八木勲

2007年、111分

【主催】菊池事件の再審実現をめざす東京連絡会

【共催】高麗博物館 ハンセン病と朝鮮人研究会、ハンセン病首都圏市民の会、全生園の明日をともに考える市民の会、カトリック東京正義と平和の会

【後援】風を紡ぐ会

ハンセン病への偏見差別が生んだ冤罪事件、菊池事件の再審開始を求める 映画『新・あつい壁』上映会

現在、熊本地方裁判所において、ハンセン病患者への死刑が執行された菊池事件の再審請求が行われており、この1月に裁判所の判断が示される予定です。

ハンセン病への偏見がどのようにして冤罪を生んだのか、ハンセン病患者に対する裁判がどれほど常軌を逸したものだったかを知るために、菊池事件を題材とした映画『新・あつい壁』を上映し、再審請求の審理の状況について弁護団から報告して頂くとともに、ハンセン病家族の菊池事件への思いを聞きます。ぜひご参加ください。

菊池事件とは

元役場職員が殺害された事件について、ハンセン病患者として報告されたことを恨みに思っていたハンセン病患者が事件を起こしたものとして、起訴された事件です。ハンセン病を理由として裁判所ではなく、医療刑務所内で刑事裁判が行われて死刑判決がされ、1962年に死刑が執行されています。この裁判については、有罪の根拠とされた凶器や証言などの評価のみならず、裁判所がハンセン病を理由として差別的な取扱いを行ったことが問題となっています。

日時：2026年1月10日（土）13:00～16:00 ごろ、12:30 開場

内容：映画『新・あつい壁』上映（111分）

菊池事件再審請求の解説（30分）＜講師：菊池事件再審弁護団 金丸哲大 弁護士＞

ハンセン病家族からの発言（10分）

中山節夫監督の挨拶（10分）

場所：カトリック麹町聖イグナチオ教会 ヨセフホール

〒102-0083 東京都千代田区麹町 6-5-1

JR 中央線（麹町出口）／ 東京メトロ 丸の内線・南北線（赤坂出口）

四ツ谷駅下車（徒歩1分 上智大学となり）

定員：200名・申込不要・参加費 500円（資料代）

【主催】菊池事件の再審実現をめざす東京連絡会

【共催】高麗博物館 ハンセン病と朝鮮人研究会、ハンセン病首都圏市民の会
全生園の明日をともに考える市民の会、カトリック東京正義と平和の会

【後援】風を紡ぐ会

【お問い合わせ先】kikuchi-saishin@shutoken.org

